

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q53（百日咳）

成人の百日咳が話題になっておりますが、当センターの患者（60歳男性）で3月ごろより咳が持続し、5月末より頻発するようになったため近医受診、百日咳抗体が山口株640倍（東浜株不明）で百日咳と診断され6月から治療を受けている方がおります。調査にて、この患者は当センターを3月、5月、6月の3回来受診してございましたため、職員、患者の健康調査を行い、6月に2週間以上不明の咳が続いている10人（すべて職員）の抗体検査を行いました。また当該患者の発症前血清（1月に採取され凍結保存）における抗体価は、山口株160倍、東浜株10倍未満でした。職員で抗体陽性だったものは8人、白血球・リンパ球増多の見られたものはありませんでした。（表）

	東浜株	山口株	症状の発現	現症状	治療歴
No.1	160	40	約1年前	時に少し	通院中
No.2	80	80	6/11	なし	なし
No.3	160	40	5月中旬	軽い咳少し	なし
No.4	20	320	4月中旬	軽い咳少し	なし
No.5	<10	80	3月ごろ	軽い咳少し	3月に通院
No.6	160	1280	5月初旬	軽い咳少し	なし
No.7	320	80	4月中旬	軽い咳少し	4月に通院
No.8	1280	1280	5月初旬	軽い咳少し	なし

No.2は当該患者の主治医（念のため検査を行なった）

1. 当該患者は1月の時点で抗体（+）でしたが、3月頃再感染があったと考えて宜しいでしょうか？
2. 成人の場合は、白血球・リンパ球増多はあまりみられないと言われておりますが、2週間以上咳症状があり、抗体価がシングル血清で40倍以上またはペア血清で4倍以上の上昇があれば百日咳と診断してよいでしょうか？また再感染がなければ抗体価は40倍未満に下がるのでしょうか？それにはどの位の期間がかかるのでしょうか。
3. カタル期を過ぎると抗菌薬は無効でしょうか？
4. 次週までに新たな有症状者（職員、患者）が出なければ今回の院内感染の拡大はないとみて宜しいでしょうか？咳が続いている職員にはマスクをさせること以外に、当センターとして特に対処することがありましたらご教示下さい。

A53

1. 山口株抗体価が160倍から640倍と上昇しており、臨床症状を伴っているため再感染と考えます。
2. 単血清では、流行株320倍以上、流行株/ワクチン株比4倍以上、対血清では流行株4倍以上の上昇で、臨床症状を伴えば百日咳と診断していいと思います。再感染がなければ抗体価は10倍未満になります。陰性化までの期間は、一定の報告はありません。
3. カタル期をすぎると抗菌薬治療での病状改善効果は期待できませんが、除菌することで他人への感染を防ぐことができるため重要となります。通常、治療開始後5～7日で百日咳菌は陰性となります。
4. 米国小児科学会では、医療従事者は接触後21日間は咳などの症状に注意し、咳が出始めたら培養検体採取後、抗菌薬内服を開始することを推奨しています。